

リスキリング・リカレント教育を充実



大学は、地域の社会人のリスキリングによるスキルアップおよびリカレント教育における学び直しの場の創出に向け、二〇二六年から大学院に新たなコース、履修証明プログラムおよび給

付型奨学金制度を設けることとし、七月四日に記者発表会を開催した。

今回の大学院改革は、今年度開設した経済学研究科経済データサイエンス専攻修士課程と併せて四つ

のテーマと五つの施

策からなり、働きながらでも学びやすいリスキリング・リカレント教育の柔軟な履修体系環境をより一層充実させる。

記者発表会では、大

西晴樹学長と村野井仁副学長(学務担当)兼教学組織改編推進室長が大学院改革の経験を豊かにすると話

し、「大学院教育は曲がり角に差しかかっていいる。学びの成果が現

ち合わせた人材が地域を

改革について、地

域の事情に通じ高度な知識と判断力を持つ人材が地域を豊かにする」と述べた。

本全体に活気が出る」と述べた。

記者発表会開催

二〇二六年度に大学院を改革

東北学院時報

8月・9月合併号

発行
学校法人 東北学院

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
電話 022-264-6423
FAX 022-264-6478

編集兼発行人 原田 善教
編 集
法人事務局広報部

お電話相談窓口はこちら
大学・大学院 ☎022-

学長室政策支援IR課
(調査依頼・各種補助金) 264-6424

アドミッションズ・オフィス
(受験相談・資料請求) 264-6455

学生課
(学生生活相談・奨学金) 264-6471

教務課
(成績・各種証明書発行) 264-6451

就職キャリア支援課
(求人依頼・就職相談) 264-6482

財務課
(学納金・寄付申込) 264-6441

研究支援課
(公開講座・講演会) 264-6430

大学院課
(大学院相談) 354-8202

中学・高校 ☎022-786-1231

榴ヶ岡高校 ☎022-372-6611

幼稚園 ☎022-368-8800

ご購読のお申し込み・同窓生の住所変更、同窓会開催のご連絡は校友課へ

☎022-264-6468

振替口座 02240-9-883



2026年度大学院入試日程

博士前期課程・修士課程

日 程	一般選考・社会人特別選考 (春季)・特別選考C日程
出願期間	2026/1/6(火)～1/14(水)
試験日	2026/2/17(火)
試験場	土樋キャンパス
合格発表	2026/2/27(金)13時

博士後期課程

日 稲	一般選考・社会人特別選考 (春季)
出願期間	2026/1/6(火)～1/14(水)
試験日	2026/2/18(水)
試験場	土樋キャンパス
合格発表	2026/2/27(金)13時

入試のお問い合わせ

●東北学院大学 入試部 アドミッションズ・オフィス
☎022-264-6455 9時～17時(月曜～金曜)※祝日を除く

入 試 情 報

東北学院大学ホームページ → 大学院入試情報

※詳細については、右記のQRコードよりご覧ください。
<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/admission/graduate/>

備えられた生きる道
聖書のことば

最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ

マタイによる福音書二〇章一四節



ぶどう園の主人が、夜明けと共に広場へ行つて人を雇います。朝から日没まで一日働いて「デナリオンの報酬」私たちの感覚では一万円でしょうが、そういう契約を結びます。ところがこのぶどう園の主人は、朝に人を雇つたにもかかわらず九時、十二時、十五時、更に日没近く十七時にも広場に出かけて人を雇います。その結果は朝から働いた人から十七時に雇つた人まで報酬は全員同じです。働いて報酬を得るという観点からすると、少しだけ働いて同じ「デナリオンをもらつた、最後の人が最も得をしたということになります。では次に、働きの実質に見合つた報酬を与えべきとすると、夕方から雇われた人たちの賃金は朝からはずつと働いた人の十分の一程度、千円に満たない報酬が適正でしようか。ただここで問題となることが、千円弱の報酬では彼らやその家族の生活が支えられません。満足な食事がいままで一晩を過ごすことにもなりかねません。これは要するに、生きることができないということになります。

ここで報酬とされる「デナリオン」は、私たちの生きる道を示しています。この生きる道を支えるものは私たち人間によって獲得されるものではなく、ただ神の恵みと憐れみによって与えられるものです。この主人が、つまり神が朝から働くものだけではなく九時、十二時、十五時、そして十七時になつてもなお、人々雇ひ入れてしているのは仕事にあづれ、その日の賃金を得ることができない人々に生きていいくのに必要なものを、何としても「与えたい」との思いです。働くすべがない、働くことができない、そういう私たち一人ひとりに生きる道を与えるといふのが必要なものを、何度も私たちを招いておられるのです。

神は私たちに神のぶどう園で働く幸い、つまり「備えられている自分の道を生きること」を教えます。何とかして「デナリオンをあげたい」つまり向いて生きてほしい、その生きる道を常に備えておられるのです。神のぶどう園には定員がありません。朝にだけ受け付けるのではありません。二十四時間その扉は開いています。しかも資格も能力といった基準もありません。心新たに、祝福された私たち一人ひとりであるとの自觉を胸に、今日も生きることを始める私たちであるのです。